



Tokai University Research & Information Center(TRIC)

主催：東海大学情報技術センター

共催：日本写真測量学会、日本リモートセンシング学会

RAPIDMAP workshop

Date: Tuesday 16th Sept., 2014

Location: Tokai University Club, Kasumigaseki Building 35Floor

日時：2014 年 9 月 16 日 14:00～17:30

場所：霞が関ビル 35 階東海大学校友会館

参加費無料・測量 CPD 対象

14:00 - 14:05	Opening address 開会の挨拶	JST 科学技術振興推進機構
14:05 - 14:25	Importance of mapping for disaster monitoring 震災時における地図の重要性（仮題）	GSI 国土地理院
14:25 - 14:45	Latest outcome of ALOS-2 ALOS-2 の最新の成果	Masanobu Shimada – JAXA 島田政信 宇宙航空研究開発機構
14:45 - 15:00	State of the art of radar remote sensing レーダーリモートセンシングの最新動向	Uwe Soergel – TU Darmstadt, Germany ダムスタット工科大学
15:00 - 15:15	State of the art in dense image matching 高度イメージマッチング手法	Fabio Remondino – FBK Trento, Italy FBK 財団
15:15 - 15:30	Aspects of advanced image classification 先端的な画像分類法	Manos Baltsavias – ETH Zurich, Switzerland スイス工科大学
15:30 - 15:45	BREAK	
15:45 - 16:00	Introduction on RAPIDMAP RAPIDMAP プロジェクトの概要	Kohei Cho – Tokai Univ., Japan 長 幸平 東海大学
16:00 - 16:15	Rapid monitoring with inexpensive UAV 安価な UAV を使った迅速災害モニタリング	H. Wakabayashi, K. Ooyama – Nihon Univ. Japan 若林裕之、大山勝徳 日本大学
16:15 - 16:30	Using mixed reality for disaster monitoring 災害監視のための MR	Toshiaki Sato – PASCO, Japan 佐藤俊明 PASCO
16:30 - 16:45	Multi-temporal analyses of aerial views for disaster assessment – the last two earthquakes in Italy 災害被害調査のための多時期解析	Ewelina Rupnik – FBK Trento, Italy
16:45 - 17:00	Automated co-registration of multimodal images 複合画像の自動幾何補正	Charis Lanaras – ETH Zurich, Switzerland
17:00 - 17:15	Disaster monitoring by SAR: Case study about the Tohoku event 2011 SAR による震災モニタリング	Chia-Hsiang Yang – TU Darmstadt, Germany
17:15 - 17:30	Final discussion & Closing 質疑応答・閉会	

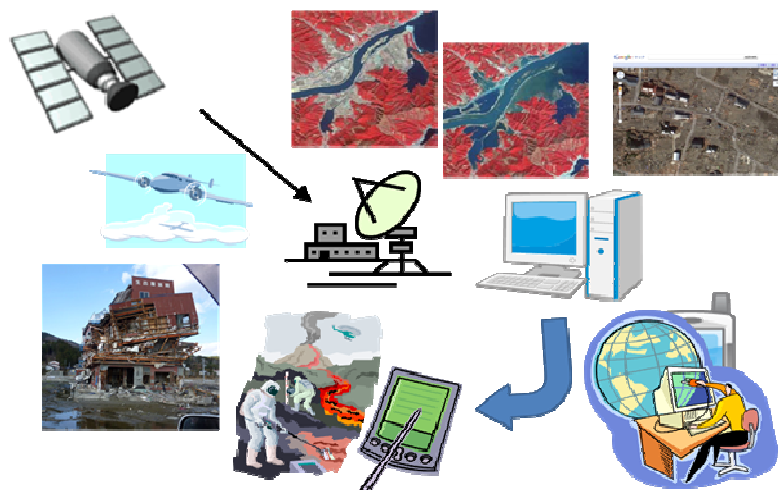
17:30 – 18:30 Reception レセプション

■CONCERT-Japan とは

CONCERT-Japan は、欧州連合 (EU) の企画する国際協力活動プロジェクトで、ヨーロッパ各国と日本との技術科学協力を効果的、協調的に進めることを目的としています。核となるプロジェクト共同事業体はヨーロッパ各国および日本からの 11 国 14 研究機関が含まれています。この CONCERT-Japan では、2012 年に「災害に対する回復力」と「効果的なエネルギー貯蔵と配分」という 2 テーマで研究プロジェクトの公募を行い、日本では科学技術振興機構 (JST) の「戦略的国際科学技術協力推進事業」として公募が行われました。応募の条件は、日本から 1 機関、欧州の異なる 2 国から 2 機関の最低 3 か国 3 機関がコンソーシアムを構成することでした。2つの募集分野に対して計 96 件の応募が寄せられ、日本および欧州諸国から 426 名もの研究者の参画がありました。JST は、募集に参加した各国との協議に基づき、「災害に対する回復力」分野で 5 件、「効果的なエネルギー貯蔵と配分」で 4 件の研究交流課題の採択を決定しました。

■RAPIDMAP とは

東海大学では、スイス工科大学、イタリアのトレントFBK財団、ドイツのハノーバー大学の研究者らと国際研究チーム（代表：長 幸平）を結成し、「災害復興を目的としたリモートセンシングと空間情報技術による被災情報図の即時作成と配信：RAPIDMAP」という題目の研究で応募し、採択されました。本研究の目的は、地球観測衛星や小型無人航空機 (UAV) が撮影した被災地の画像を迅速に処理解析・地図化し、インターネット、タブレット端末等を駆使して、被災地の救援チーム等に速やかに提供するシステムの開発を行うことです。日本側は、東海大学が衛星画像の即時受信処理、日本大学が UAV 等による現地調査とそれらの画像の即時配信を主に担当しています。また、EU 側は、スイスが衛星画像や UAV 画像の精密幾何補正を、イタリアが地図・空間情報解析を、また、ドイツが合成開口レーダデータの解析を主に担当しています。本研究で日本、スイス、イタリア、ドイツの研究者がそれぞれ得意分野を分担し、交流を通じて相互的に取り組むことで、災害対応におけるシナジー効果が期待されています。



連絡先

長 幸平

東海大学

情報理工学部長室 : 内線 4001

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目 4-1-1

TEL : 0463-58-1211

E-mail : kohei.cho@tokai-u.jp

* 事前登録は必要ありませんが、人数把握のため、できれば、メールで氏名、ご所属をご一報ください。